



## 一貫コース通信

### 同調圧力考？（自己を見失う事への恐怖）

先の事を考慮し6月にパスポート申請を行った。その時、以前に比して写真の基準に事細かな指導を受けた。何でもAIの進歩で写真での本人認証に危ういモノが在るのだと言う。更に聴くとホクロが消されて居たり、輪郭が微妙にナダラカだったりするのだと言う。まあ、写真を自分の好みに合わせ加工するのが可能になった様だ。その結果、空港での認証がAIでされる昨今、本人とパスポートの認証が出来ない場合は、入国出来ない事も在るらしい。

ケースは異なるが某新聞にAI緊急相談についての記事が載っていた。高名な大学教授の記事なので、興味深く読んだ次第である。何でも現在はヒトが最も恐れるのは、他人(ヒト)なのだと言う。その為、困った事をヒトに相談すると、いつ何時、情報を流されたりするか心配で、戦々恐々の時代だと書いて在った。また、相談する相手を選ばないと、裏切られる事も在るのだそうだ。実際、それを避けたい為に、ヒトでないAIの相談ソフトに頼るのだと言う。試しに使ってみたらなんの何の、様々な相談に対し、ほぼほぼ及第点のアンサーを得たと言う。つまり、当たり障りのない答を示してくれたとの事である。また、実際に回答に即して行動した所、困らなかったそうだ。もし、多くの人が筆者と同様にAIの答えに沿って生活を営んだとしたら、一体全体何がいけないのだろうか…？

考えるまでもなく、そこではモハヤ自分の主体が失われている事に、私は慄然とした。只々、AIの指示するままに行動する自分が居るだけだ。昨今、AIが急速に取りざたされる様になって来た背景には、危機意識を持つヒトが一定多数居ることがある。私もその一人かも知れない。AIは元々人が考案したマシンである。使用者に合わせ最適に対応してくれる様に造られているので、使う者には都合が良い。つまり、事の背景は関係なしに、与えられた問いに最適に対応してくれるのだ。勿論、善悪の判断などはかなり怪しい。

元々ヒトが生きて行く上で困難が付きまとうのは、当たり前的事である。その困難の典型は、周囲は自分に合わせてくれないことだ。換言すれば、意のままにならない不都合・不条理な事が多いとも言える。しかし、ヒトが不都合と向き合うのを回避したら、存在そのものの意義が失われるに違いない。これ等との格闘が、結果的に自己の成長を促すと私は考える。

AIに直結する話ではないものの、以前から気になっていた言葉に“同調圧力”が在る。“協調性”と間違いやすい昨今の流行語だ。後者は自分で考える余地が見えるのに対し、前者は、左右に目配せをし…只々首を縦に振って居るだけ・騒いで居る様に見えるのである。つまり、脳のニューロンのパルスが皆無で、在る種の反射(reflex)と言って良いかも知れない。

民主主義の歴史は、ほぼ民意≒数の原理で動いて来た感が在る。しかも、思考の伴う数なら良いが、反射に近い多数が悲劇を創った例も少なくない。特に8月は終戦を扱う催しがメディアで取り上げられる。この時こそ、“同調圧力”の事を考える機会としたい。

